

さいたま市立浦和博物館館報

VOL. 36-2

## あかんさす

通号 第 95 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

## 平成19年度特別展関連文化講座の概要

平成19年12月2日(日)に特別展「さいたま市内の貝塚」に関連した文化講座を開催しました。講座では、「縄文時代の貝塚―人と動物たちとのかかわりを考える―」というテーマで、動物遺存体の研究が専門の東京国立博物館客員研究員金子浩昌先生に講演していただきましたので、ここにその概要を紹介します。

こんにちは。ご紹介いただきました。金子です。

私のお話しは縄文時代の貝塚ですが、貝塚には普通の遺跡には残らないとても大事な資料が保存されています。色々ありますが、第1に動物の遺骸です。次に動物から作られた道具。こういうものは貝塚でしか残ることはありません。ですから、当時の人々の働き、人々の生活をたずねるには、貝塚の資料はとても大事なわけです。それらのことを考えながら、本日のお話しをしてみたいとおもいます。人と動物たちとの関係が、貝塚の資料からどのように窺えるか、ということがテーマになります。

貝塚は貝を採って食べた残り、それらが堆積したものですから、どこにでもできるわけです。しかし、日本列島全体をみてみますと、貝塚ができる場所というのは、決してどこでも同じように点々とあるのではなくて、入り江が発達しているところに貝塚が出来ていることがよく分かります。貝塚がある場所というのは、日本列島の中でもきわめて限られているところだといってもいい



講座風景

くらいです。それだけ、日本の沿岸には貝塚ができるというか、貝が住むいい条件があった。それを色々を利用して生活をしていたわけです。それは縄文人に限りませんが、縄文人が一番そういう生活をしやすい条件のところにあった、あるいはそういうものがとても大事な資源になっていた、ということが分かると思います。

そういう第一の条件というのは、海面変動です。2万年くらいからずーと、海水面が上昇していきます。そのピークの時に、貝塚が出来る条件ができ上がります。つまり、谷の中に海水がずっと入り込み、すぐ目の前で貝を採集することができる。それがこの縄文海進といわれるもので、縄文時代が一番海面変動の影響を受けた時代でした。そのため、海を資源とした人々の生活が、見られるようになりました。

## ■ 目 次 ■

|                    |   |
|--------------------|---|
| 平成19年度特別展関連文化講座の概要 | 1 |
| 文化講座アンケート集計結果      | 3 |
| 行事カレンダー・日誌抄        | 4 |



今回の話は、ここ埼玉県の地を採ります。ここには、東京湾の奥の方に今申しました海水がずっと浸入して、そして、その周囲に貝塚がたくさんできます。日本の中で最もたくさんの貝塚が出来た地域がこの地域です。そして、他には利根川のあたりにも、同じように海進があって貝塚ができます。このようにして、この奥東京湾の付近に貝塚の数がたくさんできたということになります。

それでは、一番古い貝塚はいつから、どこにあるのかということから、見ていきましょう。神奈川県横須賀市の夏島という島ですが、この島が日本で最古の貝塚の中の一つです。これよりも古い貝塚もありますが、海の貝を主体としたものでは、ここが日本の最古の貝塚でもあるし、地理的にも東京湾の貝塚を考える時には出発点となります。

縄文時代の早期末葉の頃、奥東京湾の浦和の辺りにも貝塚が見られるようになります。これは徐々にですけども、奥東京湾を北上して貝塚を作る人達の生活が始まります。奥東京湾と入間湾のこの二つの大きな湾に、貝塚が作られる良い条件が出てきました。湾の奥の方に、こんなにたくさんの貝塚が出来ているところというのは、おそらく日本列島に他にはないだろうと思います。つまり、それだけ海水がこの湾の中に入り込んで、そしてそれに対応する貝の生息があったということになります。奥東京湾の貝塚というのはとても特徴がありまして、堅穴の中に必ず貝をまとめます。堅穴の外の例もないわけではありませんが、堅穴の中のほうが一番保存され、よく残ります。これらは、住まなくなった堅穴住居の中に貝が棄てられたもので、奥東京湾のあたりの貝塚に、共通して見ることが出来ます。

浦和の貝塚の代表の1つである太田窪貝塚ですが、ここにあるのは全部ヤマトシジミです。所々、海の貝が棄てられていますけれども、ヤマトシジミの占める割合、シジミを採る数、量の多い様子が分かります。同じように、これは側ヶ谷戸貝塚の4号堅穴住居といいますが、ところどころにハマグリがあったりしますが、全部ヤマトシジミです。

浦和の太田窪貝塚の貝層の断面を見てみると、ヤマトシジミが下層で採られています。その上につぶれたようになってるのはカキです。カキと言うのは、海の貝ですけども非常に低鹹性といって、塩水の辛くないところまで生息できる貝です。ですから、ヤマトシジミの採れる近くで、カキも取ることが出来ます。ところで、平成7年に発掘調査をした側ヶ谷戸貝塚という貝塚の貝を見

てみましたところ、ヤマトシジミが採れるような条件の所に出てくる魚の種類の様子がとてもよくわかりました。そこには、たくさんの種類の魚が出てきました。この側ヶ谷戸貝塚というのは、太田窪貝塚より少し湾の奥になります。そのため真水の影響がより強いところです。湾の内側で採られていた魚の中に、こんなに真水の影響のある魚がたくさんいたことが分かりました。

それから、打越貝塚というのは、入間湾を挟んでさいたま市の反対側富士見市にあります。ここではクロダイ、スズキが主体で、コイが少しいます。コイとかフナとか、ニゴイとか色々な淡水の魚がいて外形も違いますけれども、魚の咽頭骨がとても大事な分類の目安になります。この骨は、一匹の中で1組しかありませんから、個体数を見ていくにはとても良い材料です。背骨などはいくつもありますから、なん個体いたかなどというのは分かりませんが、この咽頭骨ですと、これは片側ですから一個体、個体サイズが違えば別個体となります。魚の種類だけでなく、数も見つけていくことができるというわけです。スズキは内湾から川を遡ってくる代表的な魚で、どこの貝塚からでも出ます。

側ヶ谷戸貝塚の特徴といえるのがコイやウナギが多かったことです。特にウナギの骨は1,010本ほどありました。1匹のウナギの背骨の数が100本ほどですから、少なくとも10匹くらいはいました。これが1つの特徴になっています。クロダイ、メナダ、マダイなどもいますが、ウナギがたくさん採れるようなところでは、アジなどの内湾の代表的な魚は入ってこなかったようです。このような魚が、側ヶ谷戸貝塚という貝塚で見つかった魚の骨を見て分かった仲間たちです。随分色々な魚と大小さまざまな個体がいるのが分かりました。さらに、小さい魚がいるということは、そこで卵を生んで、卵が孵化して育っているということですから、その場所が良い繁殖の場所になっていたということになります。たまたま入ってきたのを採るのではなくて、そういう魚たちがその場所において、それらが成長して、このような大きな魚になった。考えてみれば、この辺りがこのような魚を育てる環境にあったということになると思います。

そして、この奥東京湾がとても特徴的なのは、カニの殻が出ることです。貝塚はたくさんありますけれど、このカニの殻はなかなか残りません。ところがこの、アシハラガニというアシハラに住むカニが、先ほどの打越貝塚というところで、この殻の硬いところが残っているのです。奥東京湾



の入間の谷の湾口部のこのようなところに、このようなカニが居たのです。カニは肉の量が結構ありますから、縄文人にとってはこのような大きなハサミのところが、大切な食料資源だったろうと思います。

魚の話でちょっと時間を取られてしまいましたが、さいたまの貝塚の遺跡からは、イノシシやシカの遺骸が少なからず出ます。数が多いというよりも、出てきた状態からとても興味のある骨の様子を見ることができます。これは側ヶ谷戸貝塚という先ほどからお話ししている貝塚からですが、この遺骸は平成7年に掘って報告されているものです。これは浦和博物館に展示されていますので、皆さんはこれをご覧になることができます〔平成20年3月現在大宮区の土器の館で公開中〕。これを見ますと、こんな風に頭を貝塚の中に入れていきますので、恐らくイノシシに対する祭祀、祭りがあったに違いないと思います。頭だけではなく下顎が出てくることもあります。歯がみんなばらばらに出てくることがありますが、こういう風にきれいに並べてみると、おそらくこのような顎があったと思われれます。頭の骨だけではなくて四肢骨、つまり、手足の骨がまとまって出てくることもあります。こういう若いイノシシをそっくり入れてるとということは、食べてないということです。骨がそろっているわけですから、食べないで祀っているのです。

以上お話ししたようなことが、私の考えですけれども、縄文人たちは、動物たちと共に生きる仲間と考えていました。動物に対する敬意と感謝の気持ち、そのようなものが縄文人の中に常にあったのではないかと思います。私たちの生活の中で、イノシシに敬意の気持ちなんかあったの？などと思うかもしれませんが、あの動物たちは私たちよりも遥かに優れた知能、知識を持っていました。とても人間なんか及ぶもつかない、すばしっこさと感覚です。ああいう動物に対する敬意の気持ちを持つ、そしてその動物たちが私たちの生活を支えてくれたという感謝の気持ちというのが、動物たちに対する扱いの中に現れて、そしてイノシシに対する扱いをみますと、そういう貝塚の中に入れるということの行為、ああいったようなことは動物たちを私たちと同じような仲間として一緒に考えていたのではないかと。それが、動物たちに対する扱いから窺えるのではないだろうかというのが、私がこれらの骨を見ている時の気持ちであります。

私の話しはこれでお終りにします。長いこと有難う御座いました。(M)

## 文化講座アンケート集計結果

受講者の講座に対する要望及び講座運営などに関する意見を把握するため、昨年からのアンケートを実施し、今回が2回目です。当日の受講者は、事前申込者が90人、内出席者は67人、当日申込者が33人、名簿上は123人で、実出席者が100人でした。地域別では、市内84人、市外7人、県外3人、不明6人です。今年の特徴としては、当初往復はがきによる申し込み数が少なかったためいくつかの団体や昨年の講座の出席者に直接はがきによる勧誘をしたことです。この直接の勧誘は効果が大きく、今後の広報の方法に一石を投じたものといえます。アンケートは資料と一緒に配布し、終了後回収しました。回収数は85枚、回収率85パーセント、昨年の回収率は84パーセントなので、昨年同様有効回答数と考えて良いと思います。各設問の回答は複数のももあり、集計は各設問ごとに他の設問とクロスして分析しました。

### 1、今回の講座はどのようにして知りましたか。

昨年に比べ市報の役割が16.5ポイント減少しました。また、特別展のチラシによる影響の合計は46.9パーセントになり、これは市報の2倍よりも多く、市報とは別に、館独自の広報の重要性が理解できます。しかし、今年の特徴は直接勧誘による参加の増加です。

### 2、時間配分はどうでしたか。

時間配分については、今回の1時間半がちょうどよい割合が昨年に比べ12ポイント増加し、大半を占めています。実際このくらいの時間が飽きず、疲れずという時間と思われれます。昨年は、短い1割以上なのに今回減少したのは、昨年より内容と時間の整合性がよくなったものと考えられます。

### 3、内容について。

よくわかったが8割近くを占めていますので、内容的には受講者に受け入れられたと思われれます。わかりにくい1割ほどありますが、この9人の中で設問5の満足度で不満と回答した人はいないので、内容の難易度は、受講者の講座のテーマの捉えかたによって分かれるかもしれません。

### 4、参加の動機は。

昨年に比べ題名に興味があったが24ポイント減になり、文化講座によく参加と博物館の講座だからの合計数が多いということは、やはり、直接勧誘の影響だと思われ、いかにその効果が大きいかがよく現れています。講師に興味があるが昨年より2ポイント増加し1割を占めるのは、講師の知名度が高いことになり、講師の選定においても適切と思われれます。

### 5、講座全体について。

とても満足とまあまあ満足は、講座に対して満足度の高い受講者であり、それらの合計が6割以上になり、普通を合計すれば9割以上の受講者が満足したことを示しており、講座自体の評価としては成功といえます。また、不満とても不満の合計が前年比7.9ポイントの減少をみたことは、やはり、講座全体の評価としては昨年より高かったと思われれます。

### 6、次回のテーマとして、希望するものがございましたらお書きください。

地域の歴史に関するテーマで、時代的には考古、中世、近世など幅広く、昨年と同様な傾向です。

### 7、そのほか、ご意見、ご感想等がございましたら、ご自由にお書きください。

昨年は舞台設定上の指摘が多かったが、今年はこれ等の点についての苦情は少なかった。他に、内容的なことではないが、講座への申し込みを電話にしてほしいとの意見がありました。(M)



# 行事カレンダー (平成20年4月～平成20年9月の予定) 開館時間 9時～16時30分

## ☆常設展

会期 4月19日(土)から7月13日(日)まで  
内容 当博物館の所蔵品による展示

## ☆親子探鳥会

会期 6月14日(土)  
内容 小学生以上の親子が対象で、見沼田んぼで野鳥を観察する。

## ☆特別展「100年前のさいたま」

会期 7月19日(土)から8月31日(日)まで  
内容 埼玉サッカー100周年記念事業の一環として開催。浦和博物館とサッカーとの接点である埼玉県師範学校を中心とした展示となります。

## ☆企画展「夏休み子ども博物館」

会期 7月19日(土)から8月31日(日)まで

内容 小学生を対象に、縄文人の顔、大昔の人々の暮らし、見沼通船堀などをテーマにしたミニ展示。

7月24日(木)から27日(日) 昔のあそび  
7月26日(土) 昔のおもちゃづくり  
7月27日(日) クイズ大会  
8月1日(金)から8月31日(日)

文化財さがし

## ☆常設展

会期 9月5日(金)から28日(日)まで  
内容 当博物館の所蔵品による展示

## 定例探鳥会〈毎月第3日曜日開催〉

(雨天中止)

会期 4月20日(日)・5月18日(日)・6月15日(日)  
7月20日(日)・8月17日(日)・9月21日(日)  
9時から12時(9時に当館集合)

参加費 小・中学生50円、高校生以上100円

## 日誌抄 (平成19年10月から平成20年3月まで)

10/1(月)～5(金) 展示替による休館(企画展→特別展)  
10/6(土) 特別展「さいたま市内の貝塚一土に埋もれた海の記憶―」  
10/10(水) 団体見学1団体  
10/21(日) 定例探鳥会  
10/31(水) 埼玉県博物館連絡協議会県外研修会(茨城県立自然博物館他)  
11/2(金) 団体見学1団体  
11/6(火)、7日(水) 中学生職場体験(木崎中1年)  
11/13(火) 常盤北小3年体験  
11/15(木) 第2回さいたま市博物館協議会(市立博物館)  
11/18(日) 定例探鳥会  
11/21(水) 埼玉県博物館連絡協議会第1回南部地区館園長会議(川口市立アートギャラリー)  
11/23(金) 団体見学1団体  
12/1(土) 博物館見学実習(埼玉大学生)  
12/2(日) 文化講座「縄文時代の貝塚一人と動物たちとのかわり方を考える―」  
12/5(水) 埼玉県博物館連絡協議会第2回資料取扱講習会(市立博物館)  
12/9(日) 特別展終了  
12/10(月)～14日(金) 展示替による休館(特別展→企画展)

12/15(土) 企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」開催  
12/16(日) 定例探鳥会

## 平成20年

1/12(土)～14日(月) 昔のあそび(体験教室)  
1/14(月) おもちゃ作り(体験教室)  
1/20(日) 定例探鳥会  
1/23(水)～25日(金) 中学生職場体験(美園中1年)  
1/30(水) 埼玉県博物館連絡協議会後期研究会(鉄道博物館)  
1/30(水)～2/1(金) 中学生職場体験(三室中1年)  
2/14(木) 埼玉県博物館連絡協議会第2回南部地区館園長会議(埼玉県歴史と民俗の博物館)  
2/17(日) 定例探鳥会  
3/4(火) 浦和ルーテル小3年体験  
3/16(日) 定例探鳥会  
3/19(水) 第3回さいたま市博物館協議会(市立博物館)  
3/29(土)～30日(日) 昔のあそび(体験教室)

さいたま市立浦和博物館館報 あかさす No.95  
編集・発行 さいたま市立浦和博物館  
〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地  
TEL・FAX 048-874-3960  
発行日 平成20年3月31日  
ホームページ <http://www.city.saitama.jp>  
E-mail [urawa-museum@city.saitama.lg.jp](mailto:urawa-museum@city.saitama.lg.jp)

